

開講科目名	西洋建築・都市史		
担当教員	足立 裕司	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

現代の建築設計の基礎となっているモダニズムについて、その形成過程から検討することにより、建築設計の基本となる表現・理論・思想についての理解を深める。それらは実際に建築設計に取り組む上で重要な素養であり、自己の設計を社会的な視座や人間的な視点から考えることにより、都市環境や建築環境についての理解を深めるとともに、建築設計を職能面、倫理面からの視点を通じて考え直す契機となることをめざしている。近代建築史の中から下記のようなテーマを適宜取り上げて講述する。多様な分野の関心を包摂しうるように、主として今日的な意義、関心の高い話題を取り上げる。

授業の概要と計画

1. アーツ・アンド・クラフツ運動以降のデザインと職能の形成
2. モダニズムと建築言語に関する考察
3. 現代建築思潮と建築環境についての考察
4. ポスト・モダニズムの理論とデザイン
5. 建築デザインにおける時間の概念

成績評価方法と基準

提示したテーマの中から1つを選び、各自が考察した内容についてプレゼンテーションする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知する。
E-mail: adachi@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

建築デザインの理論がどのように形成され、設計に反映されていくかを歴史的に考察するので、設計を志す学生は是非受講してほしい。

テキスト

参考文献は授業開始時に紹介する。

参考書・参考資料等

開講科目名	建築計画・設計論		
担当教員	遠藤 秀平	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築計画・設計の基礎となる企画・構想力を育成するとともに、具体的な計画・設計手法についての理解を深め、理論的・実践的能力を開発する。

授業の概要と計画

建築の機能構成、規模構成、空間構成など建築計画・設計にかかわる諸理論について考察するとともに、いくつかの具体的事例を通して建築計画・設計手法の分析を行う。また、社会において設計活動を実践する建築家の具体例のヒアリングを行う。

成績評価方法と基準

成績の評価は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)
要求提出物を満たすことが単位取得の基本条件となる。成果品の提出期限を厳守すること。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知する。 E-mail:endo@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

建築の設計活動はますます厳しい時代になっているが、その中でも未来にかける新しい世代の建築家を招き、リアルな授業を展開する。

テキスト

テキストは随時通知する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考文献等を紹介する。
「Next Architect」遠藤秀平編著 学芸出版社 他

開講科目名	都市計画構成論		
担当教員	三輪 康一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

現代都市と都市計画が直面する今日的テーマに焦点をあて、その都市計画上の位置づけと計画課題を論じ、種々の事例研究を通じて、解決のための方向と方策について討議・考察する。

授業の概要と計画

市民参加型まちづくりの系譜とその現在の課題について、以下のようなプログラム（講義と受講者による調査研究をもとにした討論）によって授業を進める。

- 1 テーマ解題
- 2 講義：市民まちづくり活動史1
- 3 講義：市民まちづくり活動史2
- 4 討議：調査研究テーマ設定
- 5 講義：市民まちづくり活動史3
- 6 講義：市民まちづくり活動史4
- 7 中間発表＋討論（2回）
- 8 講義：市民まちづくりの課題と展望（2回）
- 9 最終発表＋討議（2回）

成績評価方法と基準

成績は、毎回の授業内容に関するレポート(40%)、主題に関する事例研究レポート(60%)の内容で評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価は、意欲的に授業に参加し、講義内容を十分に理解した上で、課題について適切な考察・討論ができると判断できる場合を優、講義内容は理解したが、考察・討論が十分でないとは判断できる場合を良、授業内容について最低限の知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知します。

学生へのメッセージ

テキスト

教科書は特に指定せず、授業時に配布する資料により講義する。

参考書・参考資料等

参考文献は、講義のテーマに即してその都度紹介する。

開講科目名	都市景観形成論		
担当教員	三輪 康一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

都市景観を形成する基本的要素とその構成に関する理論を考察するとともに、その理論を実際の都市空間に適用する都市景観計画や都市景観形成のために手法や制度などの実践論を事例研究をもとに展開する。

授業の概要と計画

都市景観計画の理論と手法、その課題について、以下のようなプログラム（講義と受講者による調査研究をもとにした討論）によって授業を進める。

- 1 テーマ解題
- 2 講義：都市景観計画の系譜と理論（2回）
- 3 講義：都市景観調査の手法（3回）
- 4 討議：調査研究テーマ設定
- 5 講義：都市景観政策と景観デザイン誘導制度（3回）
- 6 中間発表＋討論（2回）
- 7 講義：都市景観計画の課題と展望（2回）
- 8 最終発表＋討論（2回）

成績評価方法と基準

成績は、毎回の授業内容に関するレポート(40%)、主題に関する事例研究レポート(60%)の内容で評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価は、意欲的に授業に参加し、講義内容を十分に理解した上で、課題について適切な考察・討論ができると判断できる場合を優、講義内容は理解したが、考察・討論が十分でない場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知します。

学生へのメッセージ

テキスト

教科書は特に指定せず、授業時に配布する資料により講義する。

参考書・参考資料等

参考文献は、講義のテーマに即してその都度紹介する。

開講科目名	建築都市安全計画論		
担当教員	北後 明彦、近藤 民代	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建物内での火災時から地域での災害に至るまで、避難行動は、非常時において人間の安全を確保するために欠かすことのできない緊急対応である。この講義においては、各種災害時の人間の避難行動の特性を踏まえた建築物及び地域における避難計画のあり方について講述するとともに、避難計画の立案に必要な避難計算や評価手法などについて取り上げる。

授業の概要と計画

講義前半では、被害想定と防災計画について、1) 防災実態・災害動向の考察、2) 被害想定の手法、3) 災害危険度評価、4) 被害想定から防災アクションプラン計画、5) コミュニティ防災について講述した後、各自治体における実践例を学生グループにより調査を行い、後半では、復興期における建築都市安全計画論として、1) 復興計画学概論、及び、2) 阪神・淡路大震災、3) 中越大震災、4) インドネシア・ジャワ島中部地震、5) ハリケーン・カトリーナ災害の復興期における建築都市計画の実態について講述したのち、その他の災害時後における安全計画事例を、学生グループごとにまとめさせる。

成績評価方法と基準

前半・後半いずれも講義終了後に、レポート課題を出し、それに対するグループ作業・発表を二回に分けて行うこととする。成績は、レポートA(50%)、レポートB(50%)の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	地域管理計画論		
担当教員	塩崎 賢明	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

主として居住地の環境形成・管理の理論と実際について講じる。

授業の概要と計画

地域環境の成り立ち，地域環境の形成とその主体，地域環境管理の方法，について，各種の事例を通して論じる。外国文献の講読・討議も適宜行う。

成績評価方法と基準

講義中にレポートの提出を求め、その成果によって評価する。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

提出したレポートをもとに、プレゼンテーションと討論を行う。受講生に留学生が多い場合には討論を英語で行う場合がある。

オフィスアワー・連絡先

講義日の昼休み、5：00～5：30、連絡先：内線6039、メール：shiozaki@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

講義の内容を理解した上で、自らの研究にどのように生かしていくかを常に考察することが重要である。講義と、自分の研究に関する関連文献の購読を重視する。

テキスト

指定なし。

参考書・参考資料等

開講科目名	線構造力学		
担当教員	田淵 基嗣	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築物の構造設計の基本である線材で構成される骨組の弾塑性挙動について、関連する諸問題の解析方法を含め、学部で得た知識を基礎にしたより高度で実践的な設計の考え方を修得させることを目的とする。主として鋼構造物を対象とし、下記の項目に関連する幾つかの内容について講述するとともに関連文献の輪読を行う。また、その時々最新の話題もとりあげる。

授業の概要と計画

1. 部材構成要素の局部座屈
2. 部材の座屈と骨組の挙動
3. 高次不静定構造物の弾塑性解析

成績評価方法と基準

成績は、授業中の発表(30%)と授業終了後に課す演習課題に対するレポート(70%)の内容で評価する。評価の目安は、授業中の発表については、十分に予習し内容を理解しているかで判断する。レポートについては、授業内容を十分に理解して基礎知識を取得し、得られた知識を基に実際の設計における考え方に応用できるかを見る。意欲的に授業に参加し、十分理解したと判断できるような発表、適切な文献調査がなされたレポートが作成された場合をA、授業の内容はよく理解したが、積極的な文献調査がなされなかったと判断できるレポートが作成された場合をB、最低限の基礎知識を習得したと判断される場合をCと評価する。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし

オフィスアワー・連絡先

授業時に指示する。

学生へのメッセージ

得られた知識が実際の建物の設計にどのように使われるかを意識しながら授業を受けるように心がけてほしい。

テキスト

授業時に配布する。

参考書・参考資料等

開講科目名	固体計算力学I		
担当教員	芥川 真一、飯塚 敦、大谷 恭弘	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

力学系の基礎である連続体の力学およびその数値解析法を講義する。構造力学、土質力学などの個々の体系を縦断し、包含する概念、考え方、道具を、連続体力学、計算力学として提供することを目的としている。また、これらの理論に立脚し、構造物の設計の実務において多用される数値解析法の理論や適用法を理解する。

授業の概要と計画

連続体の变形問題を取り扱う。応力、ひずみの概念、固体、流体などの材料特性と代表的な数理モデル(構成式)を学ぶ。ついで、力学問題に対する境界値問題としての定式化、その特徴、そしてその解法を学ぶ。道具として用いるベクトル・テンソル解析などの数学的技法についても、線形代数との関連性を重視して、講義する予定である。

さらに、構造物の全体、あるいは細部を設計する際に、それらの挙動を数値解析的に検討するための理論について専任教員が講義し、インターンシップ等で体験する可能性のある計算機を用いた構造物の数値解析の本質的な理論・内容を習得するとともに、具体的な解析プログラムの作成・解析等を実践的に行い、実際の設計等への適用法を学ぶ。

成績評価方法と基準

成績は、課題レポート(50%)、定期試験(50%)の結果を総合評価する。評価が60点以上となったものを合格とし、80~100点の場合を優、70~79の場合を良、60~69点の場合を可と評価する。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

固体計算力学IとIIIは前期開講し、固体計算力学IIは後期開講とする。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時等に通知する。

学生へのメッセージ

今日、実務設計等で多用される計算機を用いた構造物挙動の解析は、データを入力すれば何らかの結果を出力するため、ブラックボックス的位置づけになる恐れがあるが、そこでの理論・内容を理解・習得することにより、それらの出力結果を判断・評価することができる能力を養って欲しい。

テキスト

資料配布

参考書・参考資料等

富田佳宏著、連続体力学の基礎、養賢堂。
Y.C.ファン著、大橋ら訳、固体の力学/理論、培風館

開講科目名	構造解析学		
担当教員	藤永 隆	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築構造の性能を明示する設計に対応するべく、対象とする建築構造物およびそれに求めたい性能に応じた、構造解析手法と性能評価の考え方について講述する。自ら建築構造の特性に応じた適切な解析方法を選択できる素養を身につける。

授業の概要と計画

1. モデル化, 数値解析手法, 評価方法
2. 部材の構造解析
3. 建築物の構造解析
4. 建築物の地震応答解析
5. 解析事例

成績評価方法と基準

成績は、レポートあるいは講義中の発表の内容で評価する。60点以上を合格とする。発表、レポートの内容が充実しているものに対し優、平均的なものに対し良、最低限のものを可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし

オフィスアワー・連絡先

授業開始時に通知します。

学生へのメッセージ

特になし

テキスト

適宜授業時に資料を配布する。

参考書・参考資料等

適宜授業時に資料を配布する。

開講科目名	建築構造計画論		
担当教員	難波 尚	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

地盤，環境，経済などの諸条件の中で建築に要求される機能や形態を実現するための合理的な構造形式，材料，工法を選択する際に必要となる知識を習得する。

授業の概要と計画

下記の内容の中から，いくつかのテーマを選定して講義を行う。講義の後半では事例調査を行い具体的な事例について構造計画の理解を深める。

1. 外力と構造のモデル化，数値解析手法
2. 各種構造形式の構造特性と計画
3. 構造信頼性，リスク評価，最適化手法，感度解析
4. 事例分析

成績評価方法と基準

成績は，レポートA(40%)，レポートB(60%)の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は，講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し，意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優，講義の内容はよく理解したが，積極性が十分でない場合を良，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	防災構造工学特論		
担当教員	孫 玉平	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

構造物の破壊は構造物の耐力が外乱（作用荷重）より小さい場合に起こる。従って安全な構造物を設計するには外乱の性質を知り、構造物の耐力を適切に推定することにつぎる。
 本講義は、諸種外乱の算定手法およびその背景を理解し、構造物の終局状態とその時の耐力および変形を計算できるようになることと、外乱および耐力の算定手法を既存建物の耐震診断に応用することを通じて身に付けさせることを目的として行う。

到達目標：

1. 構造物に作用する諸荷重の算定手法（日本）を理解・応用できる
2. 構造物に作用する諸荷重の算定手法（外国）を理解・応用できる
3. 構造物の終局強度型設計法を理解・応用できる
4. 既存RC造建物の耐震診断・補修設計法を理解する

授業の概要と計画

第1週～6週

主として建築構造物を対象として、構造物に作用する各種外乱（地震荷重，風荷重など）の特質を講述する。また，地震荷重を中心に，文献調査させ，他国の荷重に関する計算法と日本のそれとの相違点について討論させる。

第7週～8週

構造物の終局耐力を予測する設計法（塑性設計・終局設計・性能設計）に関しての理論を講述する。

第9週～15週

既存不適格構造物の耐震診断方法について講述する。また実際の建物の耐震診断をレポート課題に課して診断結果をレポートにまとめさせることによって学生に耐震診断の実技を身に付けてもらう。

成績評価方法と基準

成績は、レポートA(30%)、レポートB(30%)、レポートC(40%)の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義と討論に参加し、かつ基礎知識を既存建物の耐震診断に適切に応用できたと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性や耐震診断能力が十分でない場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

随時プリントを配布する。

参考書・参考資料等

日本建築防災協会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」，2001
 日本建築センター「構造計算指針同解説」，1998

開講科目名	環境設備計画		
担当教員	森山 正和	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築や地域、都市を支えるエネルギーシステム、水・廃棄物システムなどの環境設備（環境インフラ）は、サステナブル社会に向けて今後益々重要となる。その現状と今後の動向について考察し、事例を紹介しつつ計画の基本的な考え方、計画手法について習得を図る。

授業の概要と計画

環境やエネルギーの現状を展望し、環境共生型の都市・建築における計画手法、システムメニュー、最新技術などについて、環境設備（環境インフラ）を中心に解説し、導入事例を紹介しつつ今後の課題と方向について講述する。

成績評価方法と基準

成績は、評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし

オフィスアワー・連絡先

授業時間中に伝えます。

学生へのメッセージ

盛んな質疑討論を期待します。遠慮なく質問してください。

テキスト

授業時間中に伝えます。

参考書・参考資料等

授業時間中に伝えます。

開講科目名	建築環境システム		
担当教員	高田 暁	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築システムの計画、設計において、環境工学的視点からの整合性のある設計は、安全・健康・快適性の重視、エネルギー・資源の適切な利用・配分の必要性、建築物の自律・共生化の要請の観点から、非常に重要な分野となってきた。この講義においては、これらを配慮した概念の体系や事例を取り上げるとともに、そのシステム設計法について述べる。講義に関連したテーマを課題として提示し、レポートの作成を課す。

授業の概要と計画

ライフサイクル評価システム、コミッショニングなどのトピックを適宜取り上げ、目的を定める際の意味決定の方法、目的達成のために建築物に求められる性能と手続きについて紹介する。その上で、建築物に求められる性能を確保するためのシステム設計について、システムの枠組み、設計条件、解析・評価法、判断基準等を設定する方法を論じる。

成績評価方法と基準

成績は、レポート(40%)、定期試験(60%)の結果を総合評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし

オフィスアワー・連絡先

授業開始時に通知します。

学生へのメッセージ

積極的な姿勢での受講を期待します。

テキスト

授業開始時に通知します。

参考書・参考資料等

授業開始時に通知します。

開講科目名	設計演習特論		
担当教員	建築計画系教員	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

一級建築士資格と実務経験を有する専任教員と学外設計実務者により、前半は具体的な課題を設定し、演習を行い、後半は毎年だされる競技設計課題に基づき、課題解決能力とプレゼンテーション能力を培う。実務における設計行為と同等以上の実践的な演習であると同時に大学院での講義から得た理論や学識がどのように、建築の機能構成、規模構成、空間構成などの建築計画・設計行為と結びつくかを習得する機会として位置付ける。課題設定では具体的な敷地を選定することで、実践に即応した設計演習として建築設計の能力を高める。半期120時間を予定（各研究室の別途指導時間は含めない）具体的な都市施設の設計および地域の計画等の演習を行う。

授業の概要と計画

演習課題は年度によって異なるが、以下はその課題例である。

1. 非常勤講師課題（7週、下記から1題を選択）
 - ・ 超高層ビルの改修計画
 - ・ 酒蔵の空間利用計画
2. 学内教員課題（6週）
 - ・ 日本建築学会設計競技課題

成績評価方法と基準

成績は課題に対する成果と発表などにより評価し、60点以上を合格とする。成果と発表の方法・内容が充実しているものに対し優、平均的なものに対し良、最低限のものを可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)
少数教育を前提とするため、空間デザインおよび建築計画・建築史大講座に属する教員の研究室に所属する計画系分野を専攻とする学生に限る。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

授業中に適宜提示する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜提示する。

開講科目名	建築ゼミナール		
担当教員	建築計画系教員	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと目標			
建築系の各関連分野における国内外文献の購読や研究発表等と、少人数による討議を行う。			
授業の概要と計画			
成績評価方法と基準			
成績は課題に対する発表，レポートなどにより評価し，60点以上を合格とする。発表，レポートの内容が充実しているものに対し優，平均的なものに対し良，最低限のものを可とする。			
履修上の注意(関連科目情報等を含む)			
少人数教育を前提とするため，建築系における計画意匠分野・環境工学分野を主専攻とする学生に限る。			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
テキスト			
参考書・参考資料等			

開講科目名	建築ゼミナールIII		
担当教員	建築計画系教員	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

一級建築士資格と実務経験を有する学内教員を中心として、各研究グループで行われている実際の活動を通じ、通常の実務以上の水準での設計・分析・理論化をめざしており、院生はその活動に参加することによって実践面と理論面を兼ね備えた能力を習得する。主として実地調査とそれに基づく施設計画・設計、建築群・地域の保全・修復計画などを行い、問題発見の能力と解決にむけたデザイン力を養う。

授業の概要と計画

下記のテーマから1つを選び実践的な建築演習を行う。
 1. 現在の建築素材を選び、現代的建築空間構成の可能性を追求する。素材の性格の理解、構成上の工法、構造的な強度等の検討を行い、具体的な空間をもつモデルとして図面化を含めた提案を行う。
 2. 近在の具体的な歴史的建造物を選び、実測図の作成による寸法体系、構造、構成素材について理解するとともに、その保全のための計画、設計を行う。
 3. 密集した住宅地を選び、各建物の火災・大規模災害等への対策を、調査を通じて提案する。個々の住宅について安全面からのチェックと地域の分析を通じた集合的な安全対策の立案を行う。
 4. 建築の集団規定、および都市計画法の実践的な理解をめざす。市街地または田園集落において、その住環境整備や景観整備の課題を調査把握し、まちづくり構想から地域施設の計画・設計へつなげるプロセスを提示し、あるいは建築単体の計画から街区デザインにいたる提案を行う。

成績評価方法と基準

一級建築士資格と実務経験を有する学内教員を中心として、各研究グループから提出された事前調書をもとに、成果の評価を行う。成績は課題に対する成果と発表などにより評価し、60点以上を合格とする。成果と発表の方法・内容が充実しているものに対し優、平均的なものに対し良、最低限のものを可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)
 少人数教育を前提とするため、空間デザインおよび建築計画・建築史大講座に属する教員の研究室に所属する計画系分野を専攻とする学生に限る。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

授業中に適宜提示する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜提示する。

開講科目名	建築環境造形論		
担当教員	足立 裕司	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築や環境の設計理論やその手法について最先端の具体的な事例をもとに講ずることにより、建築設計者として必要な建築設計に関する考え方等を身につけ、インターンシップや実務に即した建築設計能力の向上を図る。

授業の概要と計画

現代建築・環境造形論の系譜をふまえ、以下のトピックから幾つかのものを選び、その理論とともに、理論が具体的な建築設計の手法へとつながり、その手法が空間へと展開されているのかについて事例に基づき考察を加える。
 テーマの例：ポストモダニズム、記号論と構造主義、歴史主義、タイポロジー、コンテクスチャリズム、現象学と場の意味、批判的地域主義、テクトニクス（構築）、ポスト構造主義と脱構築、都市空間の現代的再定義。

成績評価方法と基準

グループでの事例分析の発表内容（60%）および本講義全体をふまえた個人レポート課題（40%）の内容により評価する。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

2009年度は開講しない
 (一級建築士実務資格認定科目)
 特になし。

オフィスアワー・連絡先

講義開始時に指示する

学生へのメッセージ

建築設計における理論と手法、そして空間、それらの相互関係への理解をふまえ、各自の建築設計の理論と空間の質を向上させる視点を保持し、本講義に臨んでほしい。

テキスト

講義開始時に指示する

参考書・参考資料等

講義開始時に指示する